

第105回 全国書道誌上コンクール出品要項

左記のとおり毛筆コンクール作品を募集します。奮ってご応募下さい。

◆一般部（高校生以上）

一、出品区分 一科審査会員

二科審査会員（師範）
無鑑査（教範）

一 科（書範）準四段

二 科（三段）準初段

三 科（一級）新入

※出品区分は、一月号の成績を基準とする。

※本会の毛筆部に出品していない場合は、所属団体での段級、資格または書歴を明記の上、該当する区分に出品すること。

一、作品寸法

《一科審査会員》一科》

条幅半切縦（136 cm × 35 cm）

《二科・三科》※次ページ参照

条幅半切縦（136 cm × 35 cm）または
条幅半切二分の一縦（68 cm × 35 cm）

※小さい作品を貼り合わせたものは不可

一、作品内容 漢字・かな・調和体

※一般部は、作品に出品票を必ず貼付し、必要事項を記入した出品申込書と一緒に出品料を添え出品すること。（必要な書類は、1月号送本時に予め各支局・支部に送付する。個人会員は本部事務局まで請求のこと）

◆教育部（中学生・小学生・幼年）

一、課題 自由。ただし書初めにふさわしい語句。（一月月例課題参考）

※中・二・三の書体は行書に限る。

※十二月の検定試験の会友合格者は「会友で」出品すること。

一、用紙 条幅半切四分の一（68 cm × 17.5 cm）

一、出品料（二点につき）

●一般部 一科審査会員 四、八〇〇円

二科審査会員 三、七〇〇円
無鑑査 三、二〇〇円

一 科 二、七〇〇円

二 科 一、六〇〇円

三 科 一、六〇〇円

●教育部 会友 六三〇円

中学・幼年 五三〇円

一、出品締切 令和六年一月二十四日（水）本部必着

一、送り先 〒509-5134 土岐市泉島田町一-三〇

大書心会全国書道コンクール係

一、審査 令和六年一月三十日（火）

午前九時半から セラトピア土岐・会議室

一、審査員 会長・認定審査員・及び八十人以上出品の団体責任者に委嘱する。

一、褒賞（※印申請中）

憲照記念賞（一科審査会員）・大賞・準大賞・会友特選（以上師範、会友を対象）・会長賞・※土岐市長賞※同教育長賞※同市議会議長賞※中日新聞社賞・大書心会賞・大書心会奨励賞・理事長賞・師範会賞・理事奨励賞・特選・奨励賞・俊英賞・優秀・秀作・入選・佳作

○全員に賞状、賞品を授与する。

○成績優秀な団体には、団体賞を授与する。

一、団体出品

5点以上まとめて出品の場合は団体扱いとする。特典もあり、その他出品者名簿が必要となるので、大書心会本部事務局まで申込むこと。

※支局・支部には12月号送本時に同封しました。

一、表装について

○出品作品は原則として返却はしませんが、表装を希望する場合は、表装後返却しますので、

二月末日までに本部事務局へ申込むこと。
（詳細は、支部長または本部まで）

●表装料（税込み・送料別）

条幅半切・半切二分の一 五、〇〇〇円より

A～Eまで五種類あります。

半切四分の一

F、紙表装 一、五〇〇円

G、綿表装 二、八〇〇円

※月例競書出品作品は、審査の過程で印をつけ

ることがありますので、表装はできません。

一、会長賞受賞者の特典

●教育部で六段以下の受賞者は一段階昇格を認める。

●現在小五年生以上で、幼年から通算して三回受賞した場合は会友を認定する。

※いずれも発表月から昇格する。

一、特別昇級の特典

一般部・教育部とも毛筆部1級以下の出品者は、全員一階級特進を認めます。

一、その他

○作品はすべて未発表のものに限る。

○一人何点出品してもよいが、特別賞受賞は一人一点とする。

○コンクール作品と月例競書を兼ねる事はできないので、それぞれに出品すること。

○一般部は、出品区分別・寸法別に審査の上、各上位入賞者については、昇格制度に基づき、昇格、昇段級する。（内規に定める）

○出品料は為替が小為替にして作品と同封し書留で送るか現金書留による送金に限る。

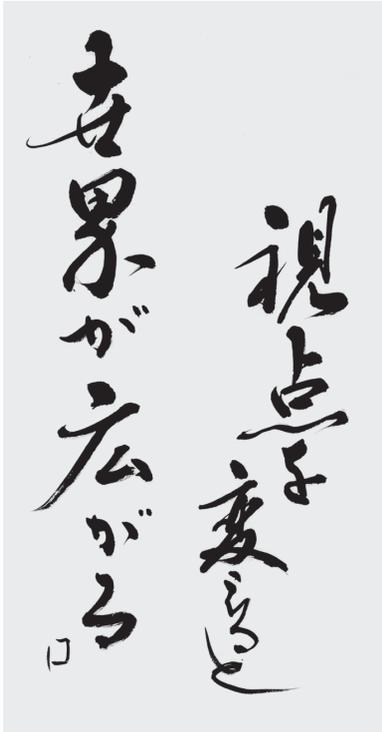
（振替、その他は不可）

○成績は、本誌4月号に発表するほか、各団体別に通知し、賞品・賞状は4月号送本時に同封する。

二科・三科参考手本 (半切2分の1サイズ用)

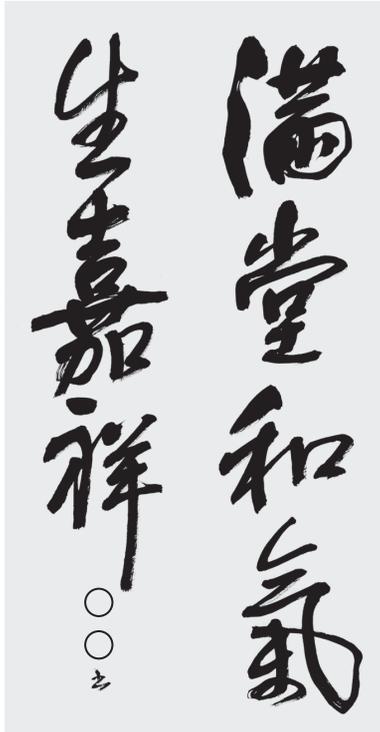
▶二科・三科は、半切2分の1サイズまたは半切のどちらかで出品して下さい。課題は自由ですが、半切2分の1サイズを選択した場合、下掲の参考手本によりご出品いただくこともできます。

視点を変えると世界が広がる



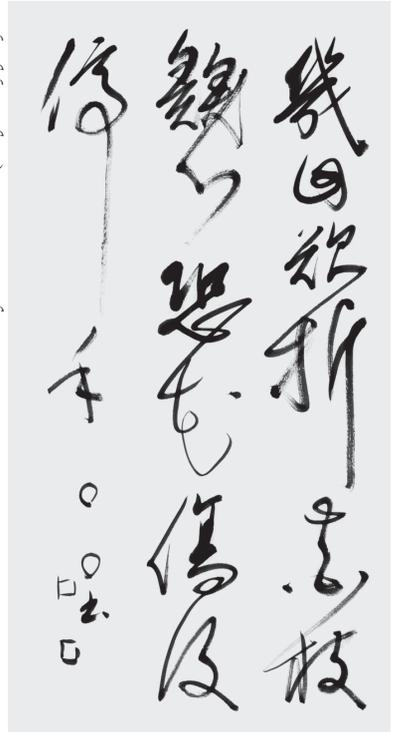
須田一葉書

満堂の和氣嘉祥を生ず



清水翠芳書

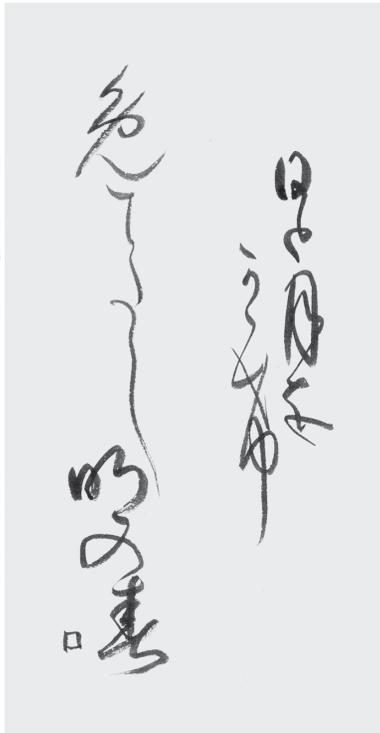
幾回か花枝を折りて艷がんと欲するも 心に花の傷つくを恐れて復た手を停む



新井龍峰書



日と月をかかげめでたし明の春 (高浜虚子)



田中貴光書

衣手にうつりし花のいろかかれて 袖ほころぶる萩が花ずり (山家集)



築瀬舟香書

三体千字文を書く (37)

締切り 一月二十四日 (必着)



奥村憲照先生書

回作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判 (二五七mm×一八二mm) 以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。
- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六

(一九八二)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穩健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

蓋此身髮

四大五常

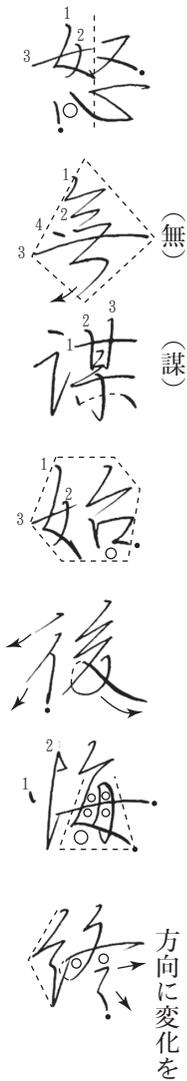
身体髪膚は父母からうけた大切なものであり、

四大を知って、五常を守って身を立てる。

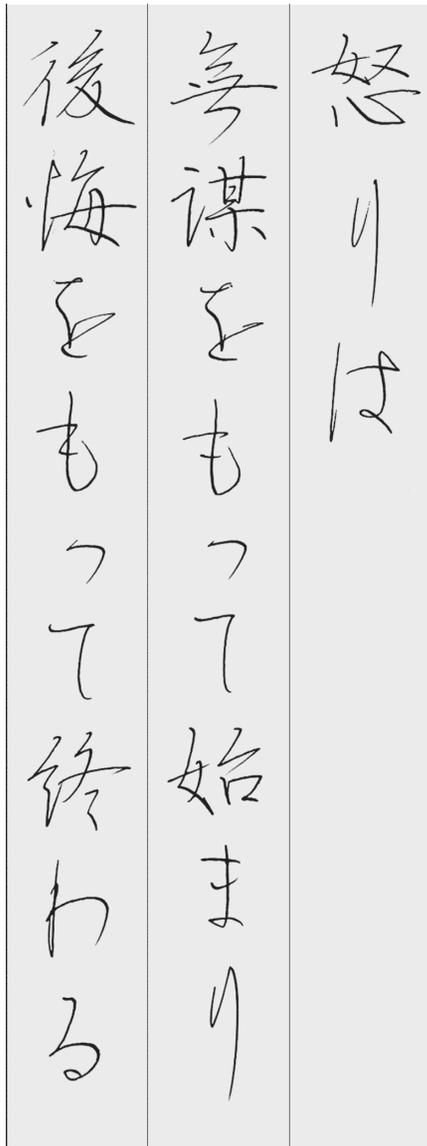
準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

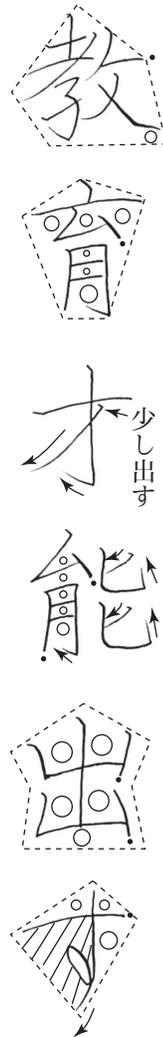


新井龍峰書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



古田瑞苑書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼教範・書範⇨行書
▼師範⇨楷書

◆2月課題予告(行草または草書)
堪忍の袋を常に首に掛け破れたら縫え

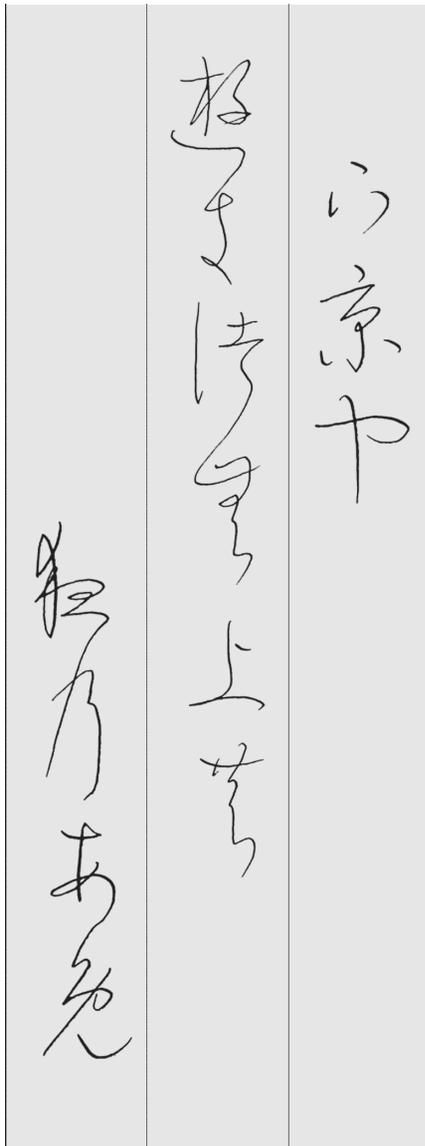
★怒りは…(書体⇨行書)
ピタゴラス(前五八二頃〜前四九七頃)私達は人から不当な侮辱を受けるとつい怒りの感情にかられ、時にはなぐりつけたり物を投げたりしかねません。しかしそのような事をした後には後悔するものです。
ロシアの文豪トルストイは「怒りは他人にも有害だが本人にはより有害である。」と言っています。
無謀をもつ怒りは一時の狂気と言えるでしょう。このような感情はおさえないものです。

◆2月課題予告(行書)
徳は孤ならず必ず隣あり
論語

★教育とは…(書体⇨楷書)
新渡戸稲造(一八六二〜一九三三)「少年よ大志をいだけ」で有名な札幌農学校初代教頭クラーク博士が去った後、稲造は入学しました。卒業後、彼は母校を始め東大や京大の教授になり明治三十九年から七年間、一高の校長を務めました。進歩的で自由な校風をうちたて、名校長とうたわれました。彼は、学生に自由に行動させその責任は自分にとるという態度で、常に「教育とは知識をつぎこむことではなく…。」と言い実践しようとしていました。

準初段から六段まで

新入から1級まで



下京や雪つむ上の夜の雨
遊文徒無農乃免

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙



下京や雪つむ上の夜の雨
川(州)農阿め

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

下京や雪つむ上の夜の雨

(野沢凡兆)

〔句解〕下町の下京の家並には、いっせいに雪が積もっている。さらに夜になると雨まで加わって、寒さ侘びしさが募ってくる。が、屋根の下には人なつこい下京の人々が心を寄せ暖め合っている生活が感じられる。

〔鑑賞〕〈下京や〉がすばらしい理由は、〈雪つむ上の夜の雨〉の侘びしく切ないような情景が、土地柄の雰囲気によって生活のぬくもりを帯びてつながるからであろう。昔の地名町名からはおのずから想像できる独特の持ち味があった。

〔古筆参考〕

遊 好 好 好 好
徒 好 好 好 好
農 若 若 若 若
阿 阿 阿 阿 阿
免 免 免 免 免

〔解説〕へや、や、へやの最後のはらいは、左から真中へ持ってきて、真中そのまま下へはらってください。

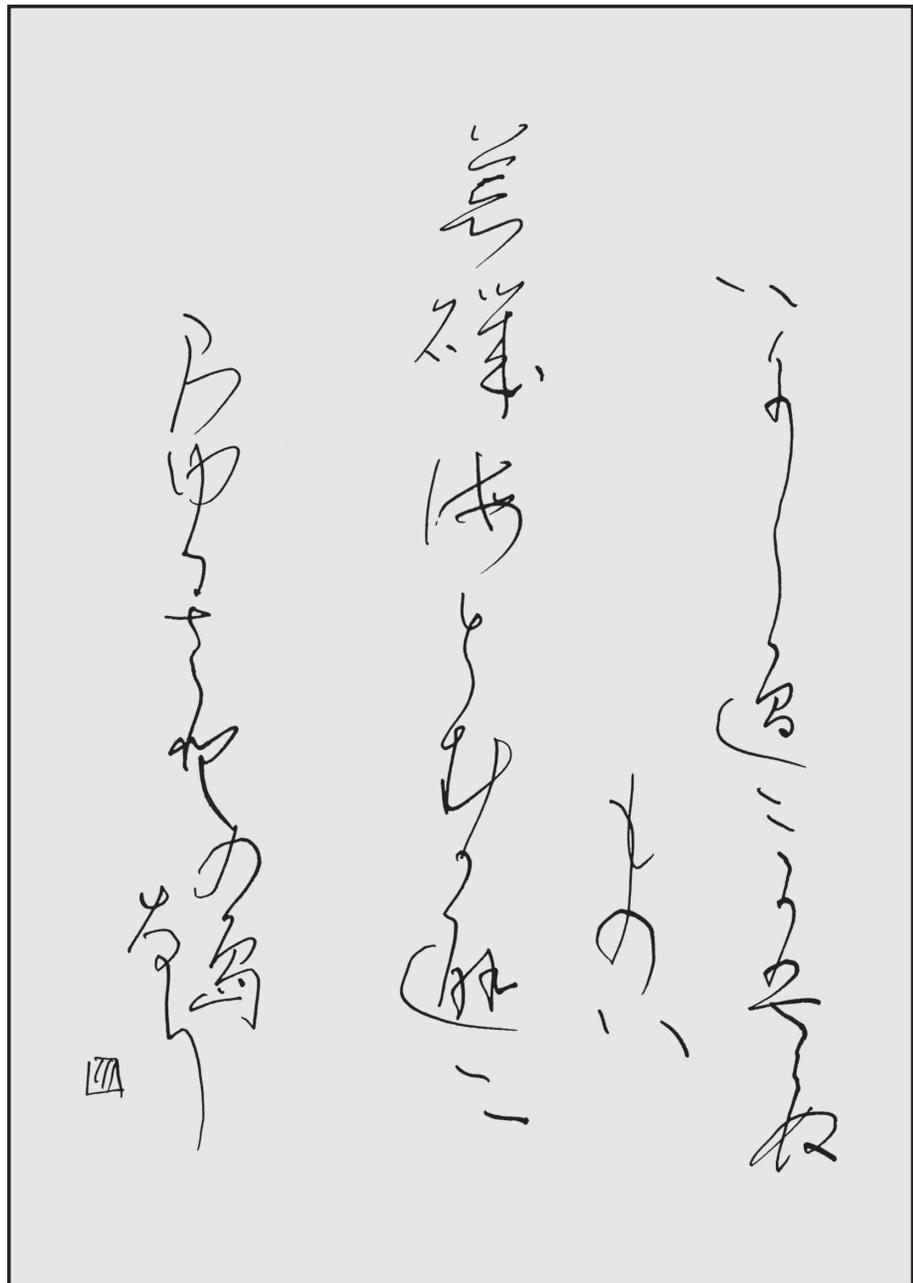
◆2月課題予告

うづくまる葉の下の寒さかな

(内藤文章)

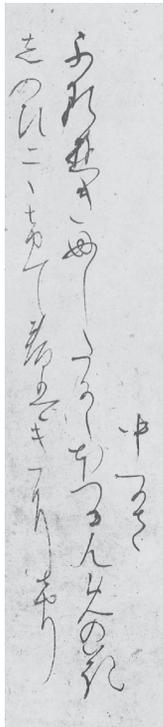
締切り 一月二十四日(必着)

築瀬舟香書



〔古筆参考〕

香紙切



志 ふるゆきもしたに、ほへるんめの花
 類遊 母 多尔 中つかさ
 しのびに、げて春はきにけり
 免 希

明けましてお目出度う御座居ます。本年も何とぞ宜しくお願い致します。

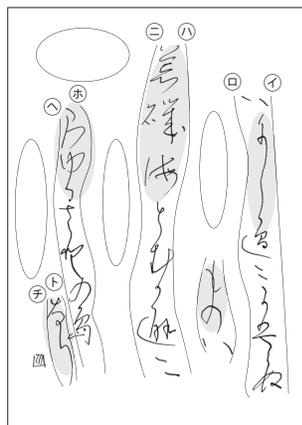
本年は近世和歌集の「良寛」さんの歌として、古筆は「香紙切」を参考に皆さまとご一語に学んで参りたいと思います。

よろしくお願い申し上げます。

いにしへに変わぬものは荒磯海とむかひに見ゆる佐渡の島なり

〔歌意〕昔と少しも変わらないのは、日本海の荒海とすぐ向こうに見える佐渡の島である。

〔解説〕



- ①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、①と⑦、①と⑧、①と⑨、①と⑩、②と③、②と④、②と⑤、②と⑥、②と⑦、②と⑧、②と⑨、②と⑩、③と④、③と⑤、③と⑥、③と⑦、③と⑧、③と⑨、③と⑩、④と⑤、④と⑥、④と⑦、④と⑧、④と⑨、④と⑩、⑤と⑥、⑤と⑦、⑤と⑧、⑤と⑨、⑤と⑩、⑥と⑦、⑥と⑧、⑥と⑨、⑥と⑩、⑦と⑧、⑦と⑨、⑦と⑩、⑧と⑨、⑧と⑩、⑨と⑩、それぞれ呼応。
- 余白大切。
- ・行のポイント大切。
- ・ポイントの動き大切。

◆2月課題予告

久方の雪の水にぬれにつ、春のものとて積みてきにけり

締切り 1月24日(必着)

厳しい寒さが続いておりますが、
お幸せな初春を迎えられたことと、
存じ上げます。我が家の庭では、
昨夜降り積もった雪で子供らが、
さっそく雪だるまを作りました。
ラインで動画を送りますね。

- 作品の出し方
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
 - 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
 - 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
 - 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本は水性ボールペン使用

厳しく寒さが続いておりますが、
お幸せな初春を迎えられたこと、
存じ上げます。我が家の庭では、
昨夜降り積もった雪で子供らが、
さっそく雪だるまを作りました。
ラインで動画を送りますね。

横 書 き 課 題

お 尾 郷 翠 光 書

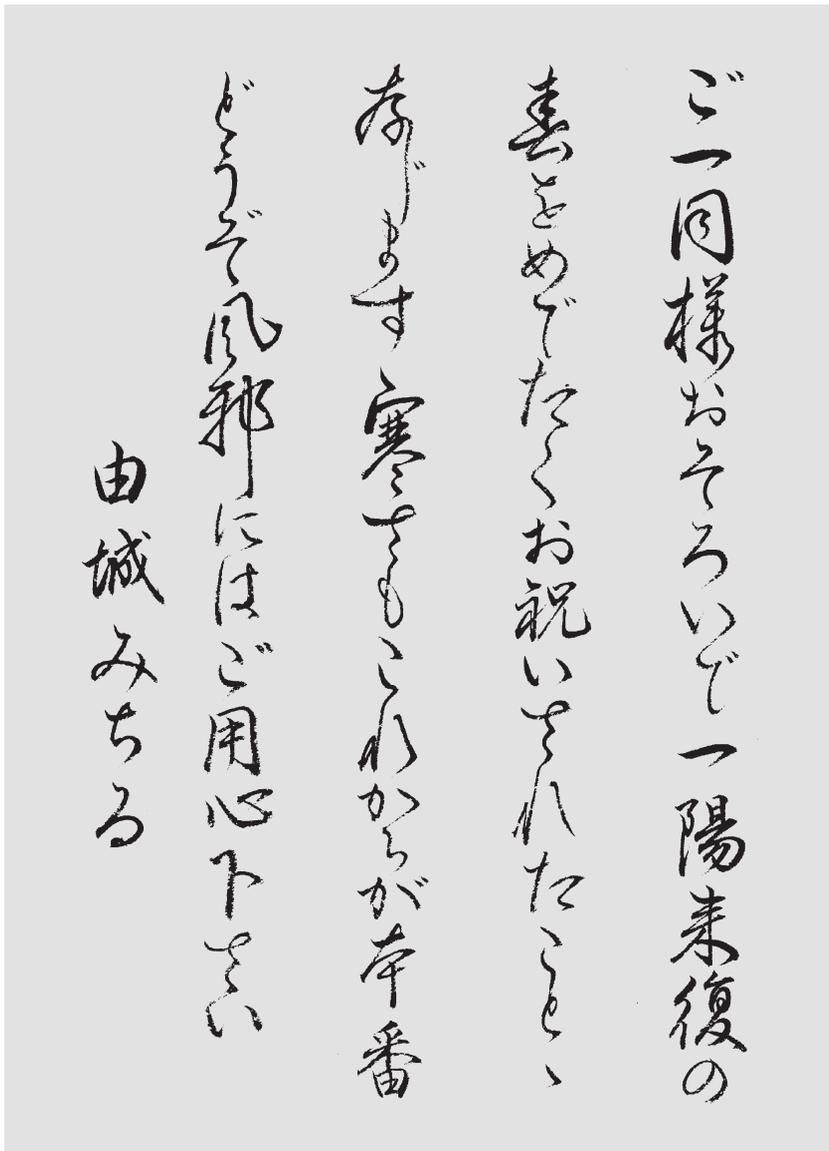
気脈は意連ともいい、その一貫を
図ることは、書の生命と言える。

鹿 児 島 県 奄 美 市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

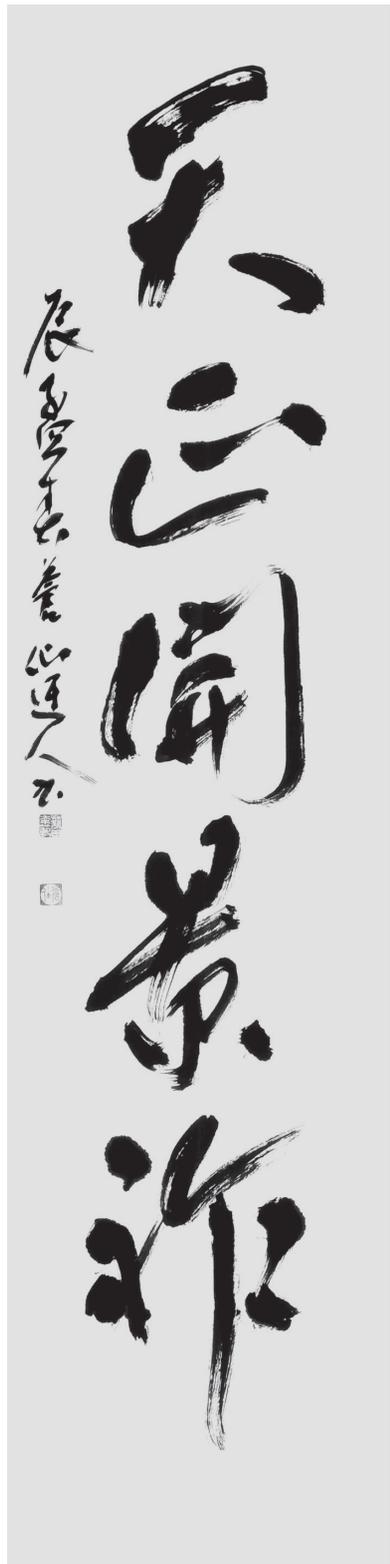
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334 mm × 240 mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 一月二十四日(必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

荻田蒼仙書

天正開景祚

〔大意〕 天帝が正に大いなる幸福を開いた。
初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

昔、読売展での事。前年に続いて賞を得れば評議員に昇格のつもりだったのが、師から「自分の頭のない新しいものを入れとらん！ 勉強した事にならん」とお叱りを受けたその有難いお言葉を、小生九十二才の現在も忘れていないつもりなのですが：

- ・ご一同様おそろいで「陽来復の春をめでたくお祝いされたことと存じます 寒さもこれからが本番どうぞ風邪にはご用心下さい (ご自分の氏名) 印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(楷書)

清水翠芳書

春近有梅知

春近有梅知

〔大意〕春のそこ^こにきたことは梅がよく知るから早くも^{つぼみ}蕾をもっている。

〔解説〕

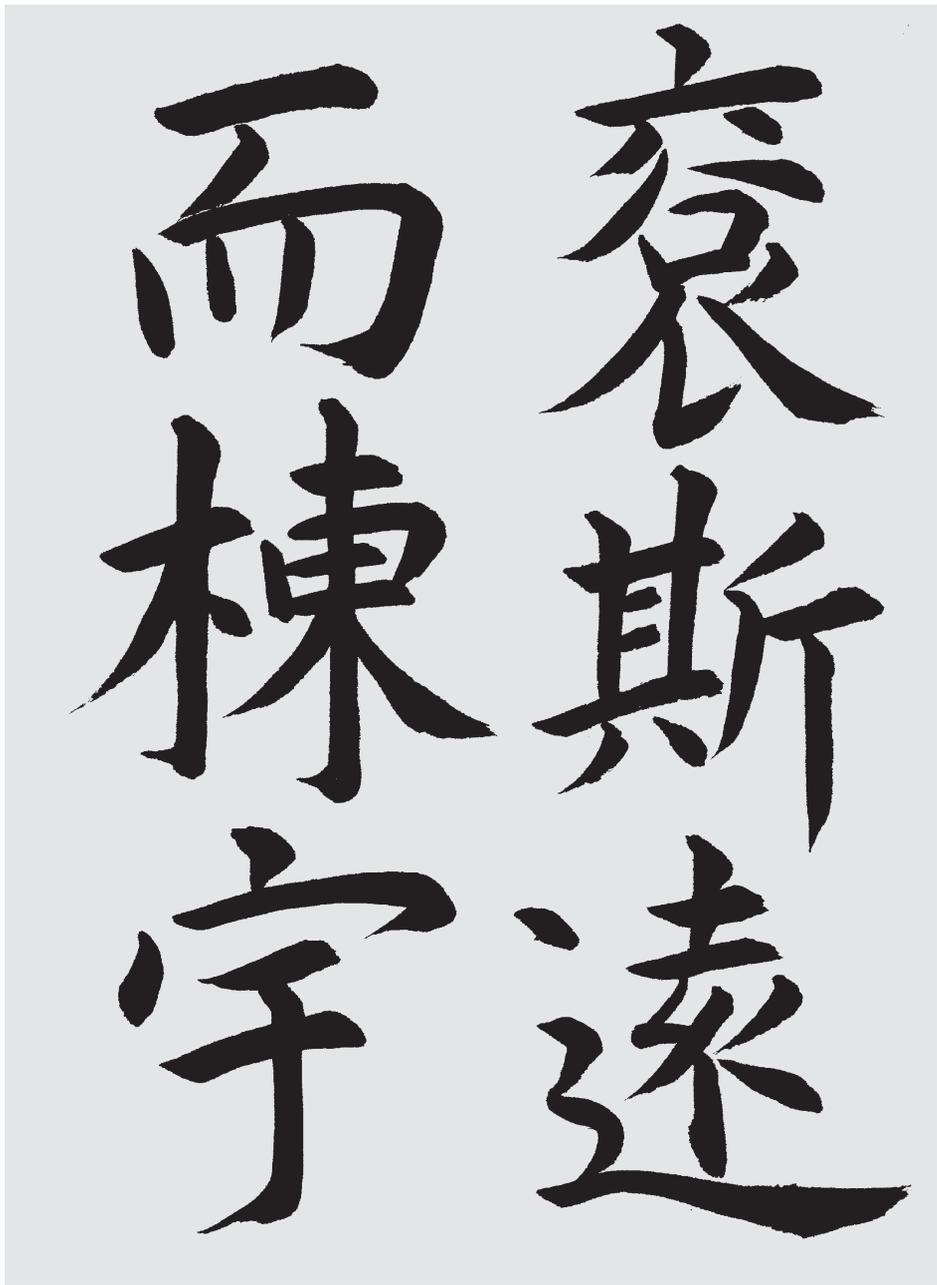
春近有梅

知

◆2月課題予告(行書)

楓林江色寒

準初段から師範まで



須田一葉臨



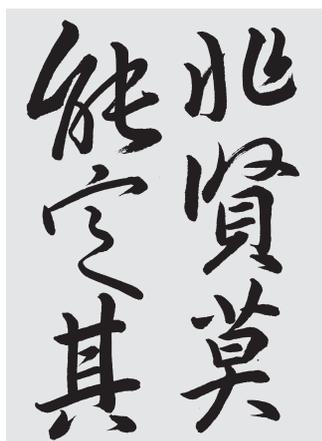
袞
斯
遠
而
棟
宇

〔出典〕孔子廟堂碑(六二六〜六三三)
 〔筆者〕虞世南(五五八〜六三八)
 〔読み〕(垂)袞斯くも遠かなるか。
 しか(垂)袞斯くも遠かなるか。
 而るに棟宇(脩められず)

〔解説〕

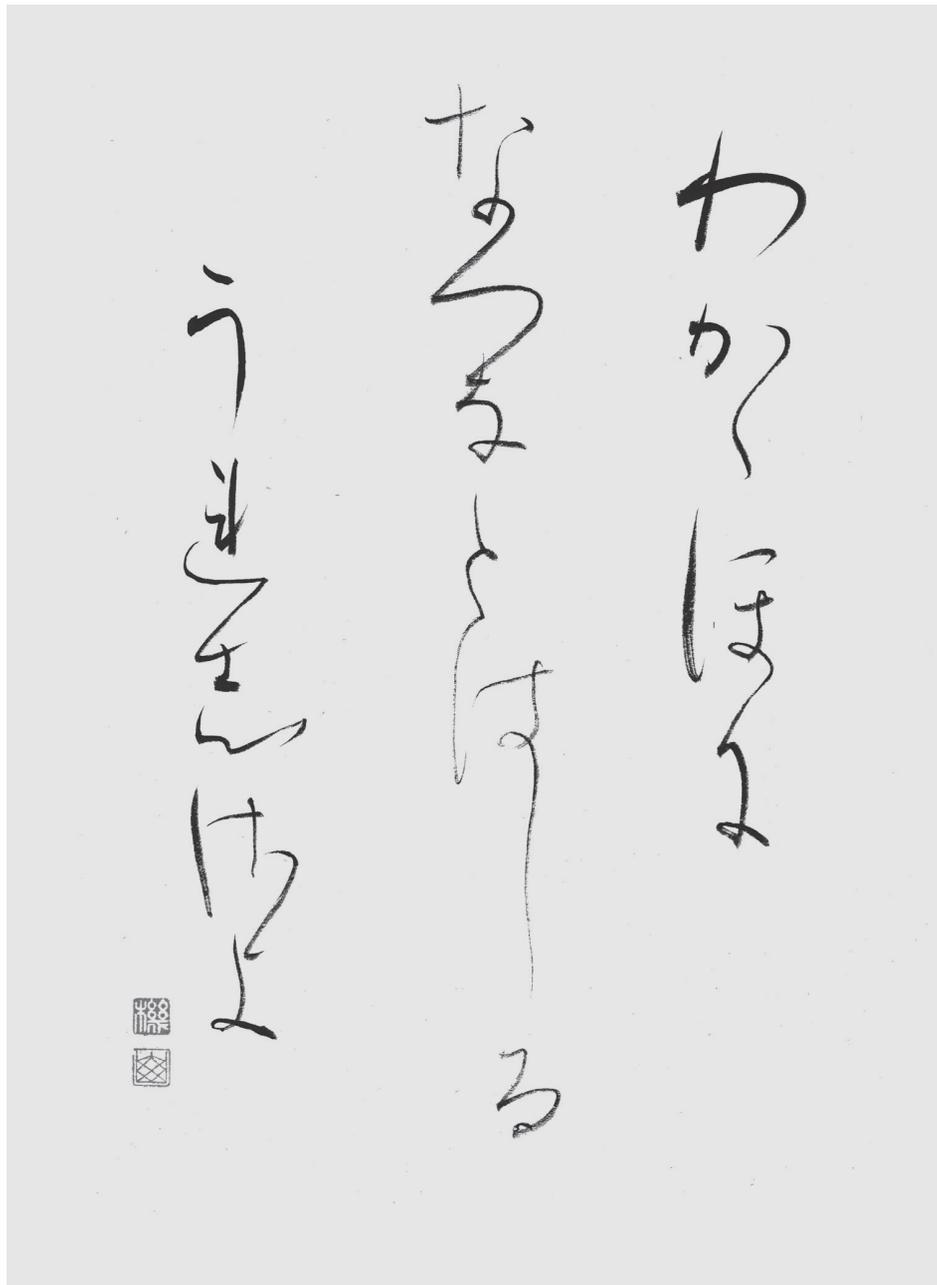


◆2月課題予告
 ※文献によって字体が異なる場合があります。



新入から1級まで

浅井機山先生書



我^{わか}顔^ほに^ほ齋^{なつ}とは^なは^つし^なる^なう^なれ^なし^なさ^なよ

連志 佐
松瀬青々

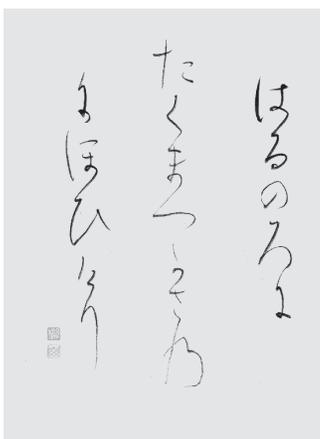
〔句意〕

一月七日は齋粥^{なすながゆ}を食べる。俎上^{そじょう}で大きくとんとんと齋をたたくと、顔に飛び散ってくるのである。明るい正月の快活さに満ちた句。

〔古筆参考〕

尔^に 尔^に 尔^に 尔^に 尔^に
 奈^な 奈^な 奈^な 奈^な 奈^な
 連^れ 連^れ 連^れ 連^れ 連^れ
 志^し 志^し 志^し 志^し 志^し
 佐^さ 佐^さ 佐^さ 佐^さ 佐^さ

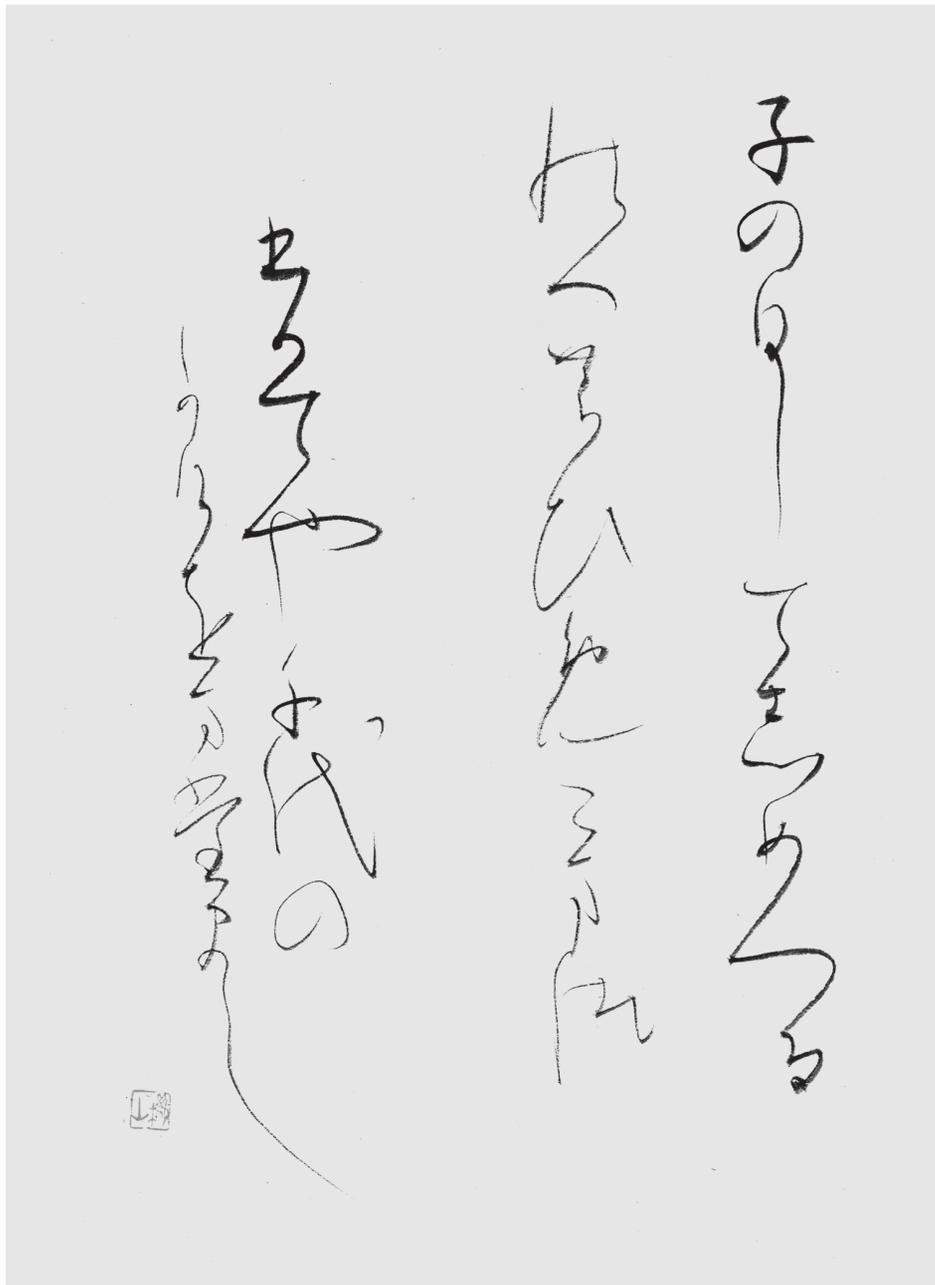
◆2月課題予告



春^{はる}の^ろ炬^ろに^た焚^まく^ま松^まか^まさ^まの^にほ^にひ^にけ^にり

準初段から師範まで

浅井機山先生書



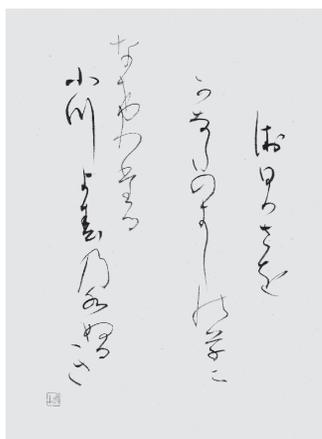
子の日してしめつる野への姫小松
 志 悲可 能 農 免 介 万 堂
 ひかてや千代の蔭を待たまし
 ふじわらのきよただ
 藤原清正

〔歌意〕 子(ね)の日の遊びをして、自分のものと場所をきめておいた野辺の小松は、引かないで、千年の後の繁る木陰を待とうか。

〔古筆参考〕

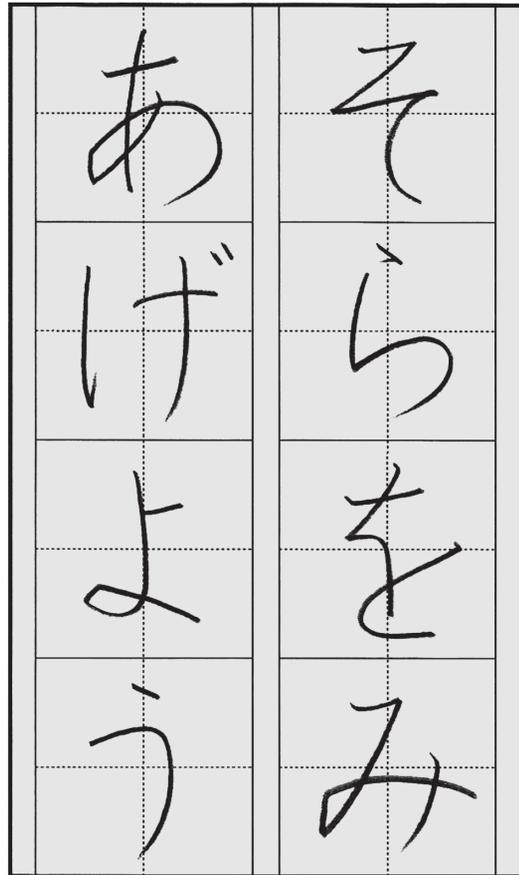
能の 能 能 能 能
 農の 若 若 若 若
 免め 免 免 免 免
 徒っ 徒 徒 徒 徒
 介け 介 介 介 介
 堂た 堂 堂 堂 堂

◆2月課題予告



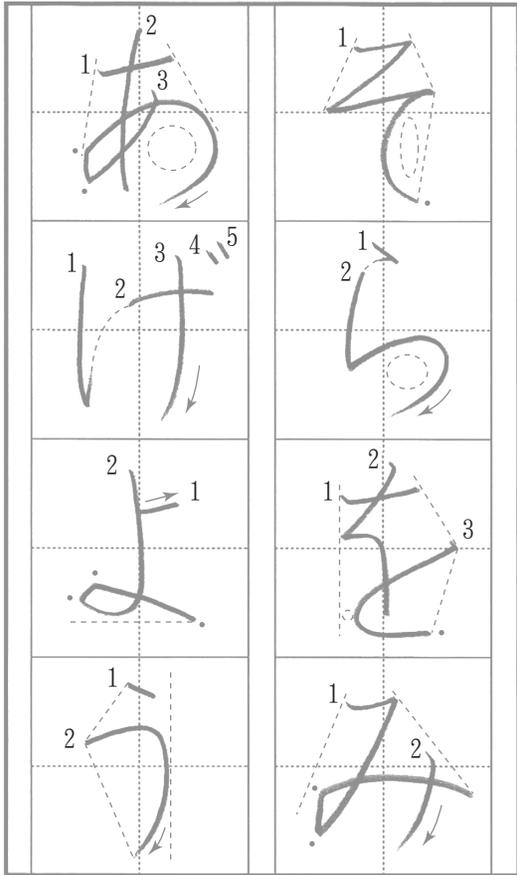
絵日傘をかなたの岸の草になげわたる小川よ春の水ぬるき

よ
う
年



★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかきこ)

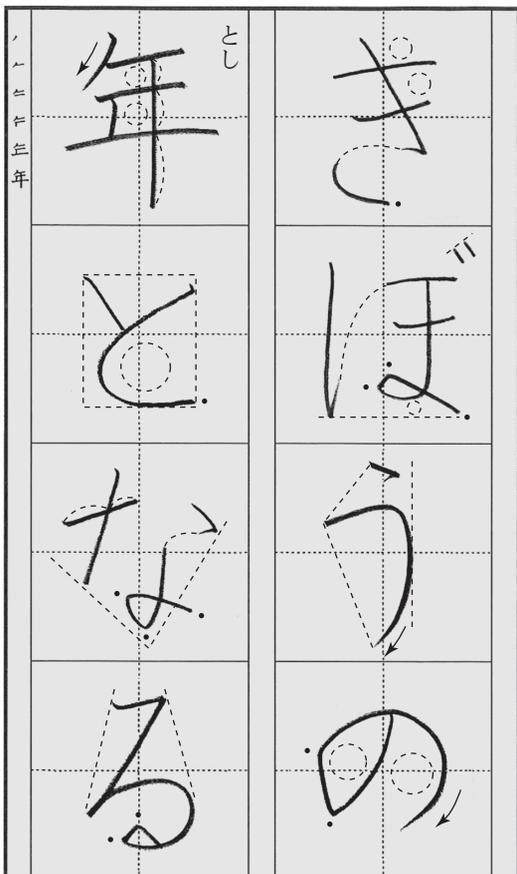
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準
初
段
以
上

新入〜1級



幼年〜小三年まで
三宅容玉書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

朝	あさ	ま
日	ひ	ふ
の		し
光	ひかり	い

新入〜1級

か	日	ま
え	の	ぶ
た	光	し
新	で	い
年	む	朝

準初段以上

小二年

準初段以上

羽	は	晴	は
子	こ	れ	
い		着	き
た		で	

新入〜1級

や	で	姉
福	羽	と
わ	子	晴
ら	い	れ
い	た	着

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

行 伊 徑 律 健 健	ケン 一ニテ元	元	ガン
广 戸 声 序 康 康	コウ 一 口 日 日	康	ジツ
一 广 戸 声 原 願	ねが	願	あさ
	一 由 章 朝 朝 朝	朝	

新入1級

き	も	元
健	う	日
康	で	の
願	に	朝
う	行	初

小四年

準初段以上

解説(よく見て習いましょう)

ハ 竹 笠 笠 笠 笠	ヒツ 一 口 月 日 目	筆	モク
一 一 五 畫 書 書	か(き)	書	ヒヨウ
一 一 一 一 初 初	ぞ(め)	初	た(つ)
	一ニニ毛	毛	モウ

小四年以上
岡嶋桂川書

初	毛	目
め	筆	標
に	で	を
し	書	立
た	き	て

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具 自由(黒色に限る)〉

友	とも	全	ゼン
姿	すがた	力	リョク
感	カン	夢	ゆめ
激	ゲキ	語	かた(る)

一ナ方友
ノハム今全全
フカ
ハハハ夢夢夢
言言言語語語

解説(よく見て習いましょう)

に	語	全
感	る	力
激	友	で
し	の	夢
た	姿	を

小六年

(全員)

知	読	様
識	み	々
を	豊	な
養	か	本
う	な	を

中二・三年

(行書)

る	を	未
新	持	来
年	ち	へ
の	迎	希
朝	え	望

中一年

(楷書)

小 二 年

小 一 年

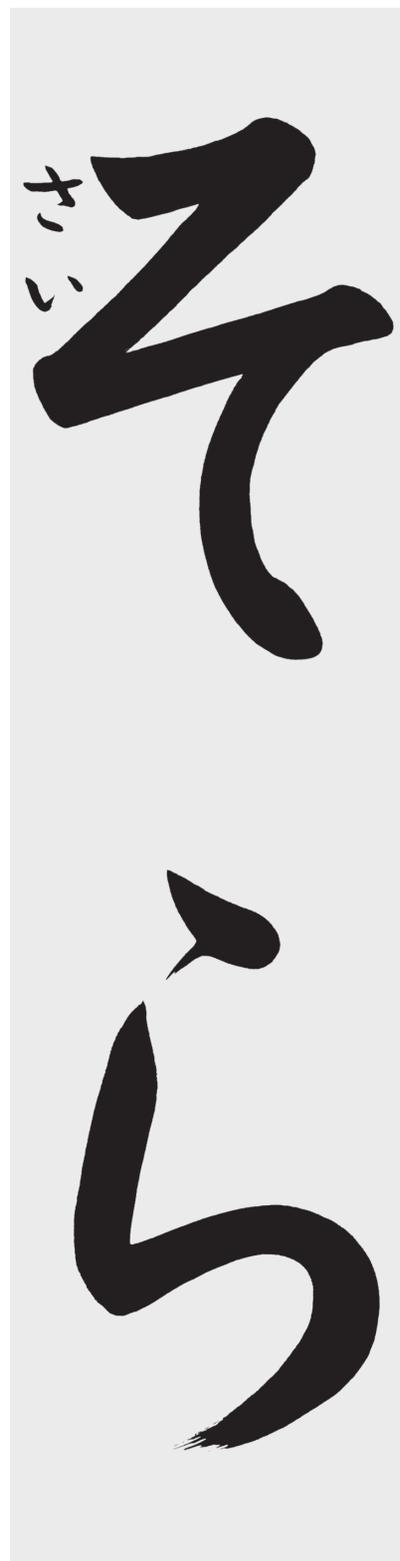
よ う 年



さか い とも こ
酒 井 智 仔 書



さか い とも こ
酒 井 智 仔 書



さか い とも こ
酒 井 智 仔 書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm × 17.5cm) に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

小 五 年

小 四 年

小 三 年



みずのへきゆう
水野碧友書



みずのへきゆう
水野碧友書



みずのへきゆう
水野碧友書

注：コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆ 1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1 (68cm × 17.5cm) に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。

中二・三年

中一年

小六年

中二・三

豊かな知識

たま きしょう か
玉樹小華書

中一

希望を持つ

たま きしょう か
玉樹小華書

小六

夢語る友

たま きしょう か
玉樹小華書

注…コンクール作品は月例競書と兼ねる事ができません。
両方に出品される方は、二枚お送り下さい。

◆1月締切りの課題は、「全国書道コンクール」に合わせて、半切4分の1
(68cm × 17.5cm)に書くか、いつものように半紙に書いてもよろしい。